

チャレンジ工房news

第84号 平成29年3月発行

発行先 パソコン工房チャレンジ

編集責任者 曲 圭子

裏面編集 浦部 吉久佐

イラスト Aya

工房の日々・・・ ～最近の研修風景～

3月になり、日中は少し過ごしやすくなってきたものの、朝夕は寒暖さがあり、通勤・通所時はまだまだダウンジャケットが手放さないほどの厳しく冷え込み日々が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

真冬でも、なかなか氷点下まで下がることはない瀬戸内海に面した「阪神地域」でも朝の最低気温が氷点下だった日が続いたので、年末からご家庭の用事や体調崩されたりして、工房を長い間、休まれていた最年長の所員さんたちがおられたので、「この寒さで体調でも壊して倒れてなかったらいいのに・・・」とスタッフみんなで心配していました。

長い間、休まれていた所員さんたちも日中は寒さも柔らいできたので、嬉しいことに先月末から家事や用事の合間をみて、「趣味のサークルの会計報告書」などの自主課題を持ってきて勉強をしにきて下さっています。

これからも体調や日々の生活に支障がない限りで、パソコンを楽しく学んで頂き、趣味活動の1つのツールにしてもらうことができたと考えています。

また、Cさんは当工房の入所時より「早く word や Excel の勉強をやり終えてイラストレーターで絵を描く勉強をしたいです」とかなり意気込んで言われていました。

その意気込み通り、毎日熱心に通所し、わずか半年足らずで word と Excel の基礎・応用の4冊のテキストを仕上げられ今は、イラストレーターの初歩的なされながら、自分自身への練習問題として好きなゲームのキャラクターをペンツールやテキストで勉強したばかりの技法を使って描かれています。

まるで芸術家のように、「キャラクターが持っている槍の角度」や「キャラクターの微妙な表情」までこだわって描く描きぶりです。本当にイラストレーターの研修や好きなキャラクターを描いているときのCさんの姿をみると「やっと自分がやりたかったことに会った」ような感じで、とても嬉しそうに作業をされています。

カレンダー・レターセット・ポストカードのオリジナル自主製品はもちろん、名刺・年賀状印刷などイラストレーターを使ってする工賃仕事が大半を占めているので、是非Cさんにはこれから何冊ものイラストレーターのテキストをやりこんでもらい、工賃仕事を任う所員さんの一員になってもらいたいと考えています。

4月の予定

4/2(月) 花見会
12:00～14:00
水明公園

※寿司・天ぷらなどの軽食や飲み物をご用意してお待ちしております。

4/27(土)～5/6(日)
ゴールデンウィーク休暇

※上記の9日間、所員・スタッフの心身ともにリフレッシュを図るため、ゴールデンウィーク休暇を頂きます。

※休み明けは、5/7(月)から開所します。



ーものづくりの絆市に参加しましたー

2月18日、障害者作業所や就労支援事業所の自主製品を販売するものづくりの絆市に参加しました。毎年、キューズモール尼崎のレンガ広場で行われていますが、今年はコープ近松店で行われました。当工房では、花言葉カレンダー、イラストカレンダー、レターセットを販売しました。

コープ近松店での参加ははじめてということもあり、なかなかお客さんのニーズの把握に苦戦しました。お客さんから「レターセットの便箋の枚数が多い方がいい」、「イラストの種類がよくわからない」など、主婦の方や家族連れのお客さんが多く訪れておられることもあって、いろいろな参考意見を聞くことができました。私としても、価格の設定や種類や商品改良など、お客さんの素の意見が聞けたり、ディスプレイの実践研修の場でもあり、アドバイスしていただいたり、他の事業者さんと交流できたりして有意義な時間を過ごすことができました。勉強の機会をいただき感謝しています。



(浦部)

ー3月尼うえるフェアに参加しましたー

3月8日に恒例の市役所での販売会であり、今年度、最後となる「尼うえるフェア」に参加しました。当日はあいにくの雨の天気となりましたが、販売会の認知度も上がってきたこともあり、たくさんのお客さんが来てくれました。

今回も16事業所の参加があり、クッキーなどのお菓子類から布製品、紙製品とレパートリーに富んだ品ぞろえとなりました。及ばずながら、店番の手伝いをさせていただき、知り合いの方に声をかけていただいたり、お客さんの様子を見させていただいて、「こういう雰囲気なのか」と感じる事ができました。

当工房も今年度最後の、4月始まりのカレンダーとレターセットを販売しました。時期的にカレンダーはお客さんも買い終わっている方も多いため、ものづくりの絆市同様なかなか苦戦しましたが、こういった経験が次の製品づくりに生かせると思っています。お客さんのニーズを当工房でできる方法としてどう製品に組み込んでいけるのかということも重要なことだと気づかせてくれる場でもあり、来年度も魅力ある製品づくりに工房としてがんばっていこうと所長とも話していました。

ものづくりの絆市や尼うえるフェアなどの自主製作製品を通してお客さんに障害者への理解や関わりのきっかけになってくれればと思っています。



(浦部)